

## 令和4年度第1回政策委員会ワーキンググループ 次期障害者総合支援計画策定のためのアンケートに関する主な意見

※主な意見を取りまとめたもので、いただいた意見を全て掲載しておりません。

番号	ご意見の概要	ご意見についての考え方
1	6種類の調査票を1本化することについては、おおむね賛成。ただし、事前にメリット・デメリットを比較し、検討することが必要。	重複障害の方や、高次脳機能障害、発達障害、医療的ケアなど抽出が難しい方の声を聴くというメリットがあるため、1本化といたします。回答数が増えてしまうことがデメリットと考えていましたが、対象者ごとの回答数は3年前と比べてほぼ同じでした（ただし、精神科病院入院患者については、番号11のとおり）。
2	1本化することについては、おおむね賛成だが、回答者にとってどこを答えればいいかわからなくなるような工夫が必要。	答えるべき次の問いを矢印で誘導するなど、工夫いたします。
3	どこを答えればいいか、色分けできないか。	費用の関係もあり色分けは困難ですが、なるべくわかりやすいアンケートになるように検討します。
4	タクシーや移動支援事業に関する項目は、削除しない方がいいのではないか。	設問項目は、一本化により96項目となり、回答者の負担や回答率を考慮すると、できるだけ削除が必要な状況です。タクシー等個別の設問は削除の予定ですが、外出時の移動手段全般に関する設問と外出時の困難に関する設問は残し、外出時に困っている方の声を聴いていくように努めます。
5	障害者差別解消法・障害者雇用促進法を知っているかという項目は削除しない方がいいのではないか。完全削除ではなく、「障害者への理解を深めるために力を入れるべきこと」という設問や「障害者福祉政策に対して望むこと、取り組んでほしいこと」という設問の選択肢に加えたらどうか。	既存の設問の選択肢に加えるようにいたします。
6	発達障害の実態の把握ということに関して、一本化することはよいことだと思う。発達障害は複数の意味で使われているので、説明が必要ではないか。	現時点では発達障害の診断を受けた方を対象に考えていますが、回答しやすさを考慮しながら、説明を加えるかどうか検討していきます。
7	8050問題や、ヤングケアラーの問題が昨今取り上げられているが、主な介護者の設問で年齢を聞いたらどうか。	ご意見のとおり、設問に加えしました。
8	就労中にどのように過ごしていますかの設問がわかりづらいところがあるので、工夫してほしい。平日の昼間の過ごし方について、選択肢7番と選択10番はわかりづらいのではないか。	回答しやすくするように、選択肢を見直しました。
9	1本化することについては、おおむね賛成。回答率が下がらないように、十分に検討をすることになると思うが、それでもやってみないと分からない部分はあると思う。もし結果的に回答率が異常に下がる等問題点が出てきたら、次は元に戻せばいいのではないか。	回答率を下げない工夫をいたしますが、結果的に問題が生じてしまった場合には、1本化したものを2～3本にする、あるいは元通り6本に戻すこともありうると思っています。
10	災害があったときにどんな支援があったらいいか、という設問について、「避難所への誘導の支援」という選択肢があると思う。災害があったときには、避難所へ行くことがまず大変である。避難所関連の選択肢が複数あるので、統廃合した上で、「避難所への誘導の支援」を追加できたらいいのではないか。	設問を見直しました。
11	在宅の方と入院患者のニーズはだいぶ違う。入院患者は在宅患者と設問が重複しない部分が多いので、この2つは分けたらどうか。そうすることで、例えば削除予定となっている、「退院をあきらめている」なども削除することなく聴けるのではないか。	今回の一本化では、精神科病院入院患者の回答すべき設問が増加となります。これは、一本化によるデメリットですが、一方で、精神手帳所持者から無作為抽出して調査票を送っている方の中の入院患者からも回答を得られることになるため、入院患者の回答を増やすことができるというメリットがあります。メリットとデメリットを比較し、今回は一本化することにいたしました。なお、今回の1本化で入院患者向けの設問で削除するものがありますが、他の設問や選択肢を見直し・工夫するなどし、実態把握に努めるようにします。
12	そもそも入院患者のニーズをアンケートで把握するのが無理があるように思う。精神科病院の課題が浮き彫りになるような別の機会があればいいと思う。	入院患者自身が回答するのが難しい、ということも想定されます。今回のアンケートとは別の方法がないか、検討していきます。
13	災害があったときにどんな支援があったらいいか、という設問について、情報という言葉が使われているが、例えば手話通訳ということと情報という言葉が繋がらない人もいますので、表現を工夫してほしい。	今までは、「いろいろな情報を」となっているところを「いろいろな方法で情報を」とするように、表現を見直しました。
14	発達障害者の配布先として団体を經由する方法がとられているが、団体の参加者が少なくなってきたり配布が難しくなっている。団体と療育センター以外にも特に学齢期の子を対象に配布できないか。また、療育センターは就学前の子が中心になると思うが、就学後も継続して経過を見ている子にも配布するように頼めないか。	発達障害者からも一定数の回答をもらえるように、また、年齢ごとの偏りがないように、いただいたご意見をもとに、検討していきます。